

ANNUAL REPORT 2024

年次活動報告

「どうせムリ」から
「できるかも」へ



特定非営利活動法人 IKUNO・多文化ふらっと

2024年4月1日～2025年3月31日

代表理事メッセージ

「ちがい」を、力に変えて。生野から広がる多文化共生の未来。



代表理事 森本宮仁子

「“ちがう”ことは“ゆたか”なこと!」。でも本当にそう感じられるためには、「ちがう」ことが不利益にならないこと、そしてたくさんの「ちがい」に出会える環境が必要です。私たちはこのまちで、多文化共生の取り組みを通じ、誰もが「あなたのいのち」と「わたしのいのち」がかけがえのないものだ実感できる社会をめざしています。これからも、多様な人々と共に歩んでいきます。



代表理事 榎井縁

「ふらっと」という磁場でつながった多様な人々が、不条理な風に抗いながら地道に歩みを進める。その営みの中で、新たな「共生」の時空が生まれます。誰もが自分を選んで生まれてきたわけではないからこそ、誰もが希望を諦めずに生きられる社会を信じて。これからも活動を支えていきます。

団体概要

名称：特定非営利活動法人 IKUNO・多文化ふらっと
所在地：〒544-0034
大阪市生野区桃谷5丁目5-37 いくのコーライブズパークA棟2階
代表理事：森本宮仁子、榎井縁
理事：金谷一郎、川端麗子、木村和弘、宋悟（事務局長兼任）
監事：田中逸郎、宮本圭造
団体設立：2019年6月30日
法人設立：2020年10月1日
職員：事務局スタッフ15名（非常勤職員含む）および有償・無償ボランティア登録380名

沿革・受賞歴

2019年 6月 任意団体として団体設立
2020年 4月 （公財）日本国際交流センター「外国ルーツ青少年未来創造事業」助成金を受託
2020年 9月 大阪大学社会ソリューションイニシアティブ（SSI）と協力プロジェクトを開始
2020年10月 特定非営利活動法人の認証を取得
2020年12月 御幸森まちづくり協議会との連携・協力協定の締結
2021年 4月 住友商事株式会社による社員参加型社会貢献事業「100SEED」事業の一環として
伴走支援の開始（2023年3月末まで）
2021年 9月 御幸森小学校跡地活用事業に関する活用事業者募集プロポーザルの事業予定者に選定
2021年12月 大阪市生野区役所と包括連携協定を締結
2022年 4月 当法人と株式会社RETOWNとの共同事業体により「いくのコーライブズパーク（いくのパーク）」の管理・運営を開始
2022年 4月 日本財団「子どもの第三の居場所事業」の助成金受託
2022年 7月 新しく多文化共生のまちづくり拠点となる施設「いくのパーク」へ事務所移転
2023年 1月 第13回地域再生大賞「ダイバーシティ賞」受賞 ※一般社団法人大阪コリアタウンとの共同提案
2023年 4月 第17回「大阪商工信金社会貢献賞」〈地域貢献の部〉受賞
2023年 5月 多文化共生のまちづくり拠点「いくのパーク」のグランドオープン
2023年 6月 （公財）日本国際交流センター「アウトリーチ手法による外国ルーツ住民の自立支援事業」の助成金を受託
2024年 4月 （公財）日本国際交流センター「外国ルーツ青少年の自立を支える進路・キャリア支援事業」の助成金を受託
2024年 5月 いくのパークの正門北側に「いくPAテラス」が完成
2024年 7月 生野区「令和6年度生野区における外国人住民との共生社会実現に向けた調査・施策検討業務委託」を受託
2025年 2月 第18回住友生命未来を強くする子育てプロジェクト「スミセイ未来賞」受賞

関係団体・機関など

学校・大学、公的機関・企業など150団体以上

私たちの想い

「どうせムリ」から「できるかも」へ

大きな壁の前で、自分には「どうせムリ」と、一人で立ちすくんでいる人がいます。もし立場や境遇を理由に、あきらめなくてもいいときがあったら。誰もが、自分と社会の可能性を信じ、「ここで生き続けたい」と思えたら。私たちが目指すのは、そんな「できるかも」と思える社会です。前を向いて、一歩だけでも進んでみようと思えるような場所。大阪・生野のまちで、私たちは多文化共生のまちづくりを通して、「どうせムリ」を「できるかも」に変えていきます。

VISION (ビジョン)

誰もが自分と社会の可能性を信じることができ、生き続けたいと思える社会

国籍、言語、境遇や立場、性別など——私たちは、それぞれ違う環境の中で生きています。ときに、その「違い」が理由で、可能性を狭められたり、自分を信じられなくなったり、社会に希望を持てなくなったりすることがあります。私たちは、そうした一人ひとりの声に耳を傾けながら、誰もが「自分にはできることがある」と思えるような、自分と社会の未来を信じられるような、そして「ここで生き続けたい」と思える社会を、共につくっていきたいと考えています。

MISSION (ミッション)

境界を編みなおす

この社会には、目に見えない無数の非対称的な境界があります。年齢、性別、ことば、ルーツ、価値観…。それらが時に人と人とを分かち線となり、無関心と断絶を生みます。差別、貧困、戦争——それらは絡まりあい、ときに命をも奪う現実につながってしまいます。境界は、放っておけば、ちぢれ、もつれ、やがて大きな傷になります。

だからこそ私たちは、その糸をひとつひとつ手にとって、まぜて、ときほぐして、そしてまた、新しい関係を地域・現場から編みなおしていきます。この営みは、一人ではできません。

あなたと一緒に、境界を編みなおしていく道程が、私たちのめざす理想の社会への一歩になります。

大阪市生野区の現状:縮小と多様化が同時に進行しています

1970年の人口21万人超から現在約12万人へと減少。高齢化率は28.5%（2024年時点）で、約4人に1人が高齢者です。一方で、日本による朝鮮半島の植民地支配の結果、大阪への渡航を余儀なくされた在日コリアンをはじめ、外国籍住民は2024年時点で約80カ国、29,646人（総人口の約23%）と確実に増加しており、特に20～30代の若い世代では外国籍住民の割合が30%を超えています。

国籍の枠に収まらない「外国ルーツ」の人々も多く暮らしており、高齢化率の改善も見られ、多文化化の中で世代交代の兆しが見えています。

「境界を編みなおす」まち、生野

生野区は「縮む社会」の象徴であると同時に、違いが交わることで生まれる「新しい可能性」が息づく場所でもあります。私たちは、境界が見えやすいこのまちだからこそ、それを編みなおす営みが必要だと考えます。親の都合で日本にきた外国ルーツの子どもへの日本語学習支援や、ルーツの異なる保護者同士の子育ての会話、地域でのイベントで複数の文化が自然に入り交じる風景の中に、小さな「できるかもしれない」を見えています。多文化共生は、遠い理想ではなく、一人ひとりが尊重され、安心して暮らせる「当たり前未来」をつくるための道筋です。生野区の歴史を受け止め、今ここに生きるすべての人とともに、静かに、着実に、新しいまちのかたちを育てていきたい。

1. 学習支援活動(DO-YA)

学習サポート教室DO-YA

大切にしている思い

子どもが自分のことは自分でできる
子どもの学び続ける力を信じる
自分と他者を認め/認められる場を作る



学習サポート教室DO-YAは、日本語や教科の学習が必要な子どもたちに、安心して学び続けられる居場所を提供しています。2024年度は、受講生168名(小81名、中高91名、その他若者4名)を支援。
年間のべ受講者数は5,327名にのぼり、前年から大幅に増加しました。

		2023年度	2024年度	前年比
学習サポート教室DO-YA				
	受講者数	107名	168名	157%
	のべ受講者数	2,696名	5,327名	198%
	高校進学実績	18/18名	20/20名	—
日本語学習サポートDO-MO (DO-YA受講者のうち)				
	受講者数	23名	64名	278%
	のべ受講者数	877名	2,595名	296%

また、新たにオンライン学習支援を開始。まだ試行段階ですが、参加者に合わせた柔軟な学びの形を模索しています。
高校受験を迎えた生徒は全員進学を果たしました。講師は多様化し、月1回の振り返り会やケース会議を定期開催。
学びを支える環境を組織的に整えつつあります。
外国ルーツの「ダイレクト生」も増加し、学びを軸にしたネットワークの広がりが見えています。



「先生たちはやさしい日本語で教えてくれます。
だから、間違えても大丈夫。
ここで勉強すると日本語がもっと好きになります。」
(カンデル・プジャさん)

始まったきっかけ

私たちは文化やルーツ、言語、家庭の状況にかかわらず、あらゆる子どもが自分と社会の可能性を信じ、生き続けたいと思える社会を目指しています。

そんな社会の土壌は、違うもの同士が出会い、互いに交差しつながる関係性によって耕されます。

DO-YA は、「自分の可能性をせばめず、チャレンジして「どおや!」と胸を張ってのぞむ未来へ向かってほしい」という願いを込めて、2017年から活動を続けてきました。一人ひとりが内に秘めている可能性を自由に伸ばすためには、その土台となる安心できる地域の居場所が必要不可欠です。居場所と学習を両立することで、すべての子どもたちの学び・育つ権利を保障し、多様な出会いと豊かな関係性にひらかれた場づくりを目指します。



「外国につながる子どもの日本語／学習サポーター養成講座」

大阪には外国につながる子ども、日本語支援が必要な子どもがたくさん暮らしています。言語や文化的背景の違いで、周りとの関係がうまく作れなかったり、教科の理解が進まなかったりと大変な思いをしている子どもも少なくありません。そこで本講座では外国につながる子ども支援に必要な多面的な知識、支援の際に必要な視点、具体的な方法を体験を通じた学びのため、支援者へのベーシック、ブラッシュアップ講座を開催しました。

ベーシックの実施

回数	実施日	内容
第1回	6月22日	外国につながる子どもの現状と課題
第2回	7月6日	自分の中の“マイクロアグレッション”
第3回	7月20日	外国語として日本語を見てみよう
第4回	8月3日	学校現場における「やさしい日本語」

ブラッシュアップの実施

回数	実施日	内容
第1回	9月7日	支援の引き出しを増やそう
第2回	10月5日	日本語力に応じた支援方法
第3回	11月2日	ロールモデルとして学校文化を見つめ直す
第4回	2月1日	子どもの在留資格と受験・就労
第5回	3月1日	外国につながる子ども・若者の支援者交流会

2. 体験活動DO/CO

体験活動「DO/CO」では、子どもたちが「広い世界」「異なる他者」「未知なる自分」と出会う機会をつくっています。
2024年度も地域団体や店舗と連携し、料理体験、文化交流、地域探検など多様な活動を実施しました。

回数	日時	内容	協力・連携団体等
第1回	7月27日	Pepper先生によるプログラミング講座	
第2回	10月11日	ピザ作り体験	イタリアンレストラン猪飼野
第3回	10月13日	稲刈り体験	ひまりえん
第4回	12月15日	ヤングアメリカンズのワークショップ	NPO法人ロータス
第5回	12月27日	こどもカフェ	
第6回	2月24日	伝統ゲーム大会	生野地域活動協議会
第7回	3月24日	大阪大学の箕面船場図書館と吹田キャンパスに見学	大阪大学人間科学部等



参加者アンケートを活かしたPDCAサイクルに取り組み、活動を継続的に改善。

子どもたちのワクワク感や発見を大切にしながら、地域とのネットワーク拡充にもつながっています。



お米って、ひとつひとつはこんなちょっとしかならないんや
(参加者：そうすけくん)

③. いくPAのこども食堂～てんこもり～

大切にしている想い

あなたはてんこもりすてき
ごはんいっぱい、おなかいっぱい、てんこもり
いつでもおいでよ、てんこもり

始まったきっかけ

学習サポート教室につどう子どもたちを対象に、
「安心・安全」な居場所としてこども食堂を始め
ました。地域の子どもたちも集まってきて、
わいわいと賑やかな場所になりました。
学習サポート教室DO-YAの理念を受け
継ぎながら、素敵なあなたが素敵ななかま
に出会えるように毎週、開催しています。



	2023年度	2024年度	前年比
こども食堂			
実施回数①	47回	47回	100%
のべ参加者数②	1,117名	889名	80%
おにぎりてんこもり			
実施回数③	—	28回	—
のべ参加者数④	—	282名	—
合計実施回数(①+③)	47回	75回	160%
合計のべ参加者数(②+④)	1,117名	1,171名	105%



「こども食堂～てんこもり～」は、毎週金曜夜に子どもたちに食事と安心を提供する活動です。2024年度は、のべ参加者数は減少しましたが、子どものニーズを受けとめ、土曜昼に「おにぎり～てんこもり」を新設しました。両活動あわせて年間75回、のべ1,171名が参加しました。

食堂は単なる食事提供にとどまらず、子どもたちの生活力や自己効力感を育む場であり、地域のセーフネットとしての役割も果たしています。

ボランティアや地域住民との交流を通じて、信頼関係とつながりが広がっています。



料理が好きでボランティアを始めましたが、子どもたちが鍋をのぞき込んで“今日のおかずは?”と楽しみにしてくれるのが嬉しいです。

(ボランティア：金静子さん)

1. いくPAの農園～ぐるぐる～の運営

大切にしている想い

無農薬野菜を「育てる」

農園で「学ぶ」

農園で「つながる」

始まったきっかけ

健康で豊かな生活を送る上で、「食」と「農」は欠かせない要素ですが、大阪のような都会ではなかなか自然と触れ合う機会がありません。

畑作業の未経験者でも手軽に「農」にふれることができ、作業を通して住民同士が交流できる、そんな居場所を実現するために、閉校になった小学校の運動場にあった「花壇」を利用して、いくPAの農園～ぐるぐる～の活動を始めました。



		2023年度	2024年度	前年比
農 園				
	活動回数	60回	45回	75%
	ボランティア登録者数	114名	125名	110%
	のべ参加者数	663名	243名	37%

農園「ぐるぐる」は、無農薬の野菜を育てながら「育てる・学ぶ・つながる」をテーマに、多文化・多世代の交流を生み出しています。

2024年度もボランティア主導の運営体制を整備し、こども食堂への食材提供や近隣への還元を継続しました。

また、朝市の定期開催により「いくのパーク」の認知向上に寄与。

農園は食と環境を軸に、地域の共感を広げる場となっています。



わたしが畑と図書室のボランティアに参加して3年が経ちます。長く二つの活動続けることができた理由は、ほどよい距離感があること、おもしろい出会いがあること、学びがあることだったと思います。

(ボランティア：廣中さん)

2. いくPAの図書館～ふくろうの森～の運営

大切にしている想い

あなたがそのままいただける
多様な人や文化に出会える
いろんな言葉が大切にされる

始まったきっかけ

小さな子どもたちや、子育て中のお父さん・お母さんたちにやさしい図書室をつくりたい。

このまちに暮らす多様で素敵な人たち同士が
会って交流できる場をつくりたい。

何よりも来てくれるあなたが、ほっとしてそのまま
いただける場をつくれたらいいな。

そんな思いで、いくPAの図書室～ふくろうの森～
は生まれました。



図書室

	2023年度	2024年度	前年比
開催日数	174回	184回	106%
利用者数	4,097名	5,187名	127%
ボランティア登録者数	36名	35名	97%
貸室利用	19件	23件	121%
図書室イベント	—	34件	—



図書室「ふくろうの森」は、「誰もがそのままがいい」
居場所を目指し、週4日開館。

20言語・約1,000冊の絵本を収集し、外国人住民の
子育てや地域住民の憩いの場として利用されています。

読み聞かせ活動やワークショップを通じ、

子どもから大人まで多様な人々が集う空間となっています。

貸室

	2023年度	2024年度	前年比
利用件数	172回	281回	163%
利用者数	6,177名	10,335名	167%



子どもと一緒にボランティアに参加し手伝ってもらった事で、
成功体験や自己肯定感を育む事に役立ち、色んな年代や
国籍の子ども達と知り合う事で学びがあり、彼女にとっても
私にとっても大切な居場所となりました。

(ボランティア：ヘンドリックス礼佳さん)

3. いくの多文化クロッシングフェス2024 いくの万国夜市の実施

大切にしている思い

食/つながる
夜/ともす
一歩/ふみだす

可能性/信じる
出会い/変わる
境界/編みなおす



文化、言葉、育ち方——そのどれもが、子どもたちにとっては新しい世界への扉です。

年に一度のこのフェスでは、「子どもと若者が主役」となって、ちがいと出会い、学び、そして気づきを得る特別な時間をつくっています。そして子どもとともに、大人もまちも育っていく。その小さな気づきの積み重ねが、やがてまちを変え、社会を変えていく。

そんな未来を信じて、わたしたちは「食を通じたまちづくり」をめざす株式会社RETOWNと一緒に、この夜市とフェスを続けています。

始まったきっかけ

昼間にはぎわう生野のまちも、夜になると静かになる。
このまちの夜にも、声と光を灯したい——
食で人とつながり、夜ににぎわいをともす。誰かの「やってみたい」が、一歩をふみだす場にもなる。
文化がまじわり、人が語らい、挑戦が芽生える。
夜にひらかれる、生野のもうひとつの顔になる。
そんな思いから、いくの万国夜市は、はじまりました。
わたしたちのまちは、たくさんの「ちがい」が会おう場所。



		2023年度	2024年度	前年比
クロッシングフェス / 万国夜市				
	開催数	3回	5回	167%
	参加者数	10,460名	7,970名	76%

2024年度は「いくの万国夜市」と「大阪コリアタウン夜市場」を初めて同日開催。

地域の多文化共生を広く発信する機会となりました。

クロッシングフェスも継続し、まちの風景に定着しつつあります。



4. いくPAの多言語相談室～ともに～

大切にしている想い

個の尊重エンパワメント

共生のとりでをつくる

仕組みづくりソーシャルアクション

始まったきっかけ

学習サポート教室の活動を通して、子どもたちだけでなく保護者の悩みや困りごとにも出会う機会が増えました。日本で暮らす外国ルーツの人たちが、不安を抱えず、そして孤立せずに生活していけるよう、社会的つながりの強化をめざして、2024年から、よりそい、ともに、解決をめざす多言語での相談窓口を設置しました。



	ベトナム語	中国語	その他	計
相談件数	98件	150件	28件	276件
相談員数	81名	52名	5名	138名

5. 調査・提言活動

IKUNO・多文化ふらっとでは、現場の課題や住民の声を政策につなげるために、調査と提言活動を行っています。2024年度は、生野区に暮らす外国ルーツ住民7,000人を対象に大規模なアンケート調査を実施しました。調査では、言語の壁、就労や教育の困難、地域社会とのつながりの不足など、多文化共生に向けたさまざまな課題が浮き彫りになりました。その結果をもとに、「33の重点施策」と「121の具体的事業化提案」をまとめ、生野区や関係機関に提言しました。



また、この調査は単に「困りごと」を明らかにするだけでなく、地域の多様な人々が持つ力や可能性も示しました。外国ルーツの若者のキャリア形成や、地域住民との協働による居場所づくりなど、未来につながるアイデアが数多く寄せられています。さらに、内閣府の国家戦略特区調査事業にも参画し、生野区の取り組みを全国に発信。地域の声を、国レベルの政策形成に反映させる挑戦も進めています。「地域で生まれた小さな声を、社会を変える大きな力に。」私たちはこれからも、まちの課題を見つめ、政策へと橋渡しを続けます。

6. キャリア相談活動

外国ルーツ青少年の進学等の支援活動「エンパシード」 つながりを育む交流と居場所づくり

エンパシードでは、外国ルーツ青少年が安心して集まり、語り合える居場所を提供しています。

若者自身が企画し、主役となる交流イベントや企画活動を支援。

仲間と出会い、自分の想いを形にする経験が、社会参画への一歩となっています。



学びを支える仕組みづくり

区内の保育園・幼稚園・小中高校と連携し、多言語絵本の読み聞かせ活動を展開。子どもたちは自分のルーツを大切にしながら地域とつながり、互いの文化に触れ合う機会を得ています。



未来を見据えた進学支援

進学ガイダンスを実施し、高校や大学への進路選択をサポートしました。進学や就労に関する情報を共有することで、「どうせ無理」ではなく「できるかも」と思える環境づくりを進めています。



1回

事業名
新年度どう？
&
パーティ企画考えよう会

開催日
6月22日(土)

会場
多文化ふらっと会議室

参加者
6名

2回

事業名
はちゃめちゃサマーフェス
～世界と日本をつなごう～

開催日
9月7日(土)

会場
いくのパーク多目的室

参加者
38名(当該若者数:6名)
連携団体
4団体(神戸医療未来大学、
YMCA高等学院等)

3回

事業名
THEグローバル!
ここでもしか買えない世界

開催日
12月8日(日)

会場
クロッシングフェスに出店

参加者
32名(当該若者数:6名)

外国ルーツの若者たちが、自分の特技を来場した方々に提供する「THEグローバル!ここでもしか買えない世界」。特技として、アジアから中近東、アフリカまで、多くの地域で主に女性の装飾として様々なデザインとなって愛されつづけている「ヘナタトゥー」を提供しました。その他にも似顔絵、DJなどそれぞれの特技を活かして、こどもから大人までたくさんの方々に楽しんでいただきました。



《外国につながる子どものための 私立学校・専修学校ガイダンス》

開催日 9月14日(土)14時から17時
参加者 54名
会場 いくのパーク多目的室
参加校 学校法人大阪YMCA、YMCA学院高等学校
大阪YMCA国際専門学校国際高等課程
学校法人白頭学院建国高等学校

《いくのパークでいろんなことば &あそびdeいくのっこパーク》

開催日 11月17日(日)10時から14時
参加者 400名(当該若者50名)
会場 いくのパーク体育館及び多目的室等
主催 IKUNO・多文化ふらっと
大阪わかば高校
生野区役所
内容 外国ルーツ高校生らによる
母国語の絵本の読み聞かせ活動等

《外国につながる若者のための 大学進学ガイダンス》

開催日 3月2日(日)13時から17時
参加者 81名(当該保護者・子ども50名)
会場 いくのパーク多目的室
主催 IKUNO・多文化ふらっと
協力等 協力:生野区役所/後援:大阪府教委・大阪市教委
参加大学 大阪経済法科大学/大阪国際大学
大阪観光大学/大阪女学院大学
関西国際大学/流通科学大学



学びや体験、交流を重ねることで、外国ルーツの若者たちは未来を切り拓く力を身につけています。
エンパシードは、その伴走者として、これからも重層的な環境づくりを続けます。

進学・就労支援事業「ポジドリ」

進路を考えるきっかけをつくる

ポジドリでは、外国ルーツの若者たちが大学や専門学校への進学、企業での就労といった多様な未来を描けるように、進路情報を提供するガイダンスを実施しています。2024年度は、ガイダンスを通じて高校や大学との信頼関係を築き、次年度以降の連携強化の基盤をつくることができました。特に「大学進学ガイダンス」の拡充が、今後の大きな課題であり可能性でもあります。



企業と若者をつなぐマッチングの試み

11月には、休眠預金等活用事業の指定団体であるJAMPIAが主催した「関西マッチング会」に参加。さらに内閣府の調査事業に提案する過程を通じて、企業との協働の糸口をつかみました。これらの取り組みは、若者と企業が互いに理解し、就労へとつながる新たな関係づくりの第一歩となりました。

地域の企業との連携へ

生野区内の企業・事業所とも接点生まれ、地域に根ざした連携の端緒が開かれました。今後は、こうした企業との協働を事業や財政支援の仕組みへと発展させていくことが求められています。



進学や就労の選択肢を広げることは、若者が「自分の未来を信じられる」社会への第一歩です。ポジドリはこれからも、学校・企業・地域と協力しながら、若者の可能性をとみにひらいていきます。

7. 大阪大学SSI等との学びのデザイン化拠点の創出

大切にしている思い

大学と連携しながら地域の中の「学びのキャンパス」の創出
＜ひとびとのあいだのちがい＞ ＜ひとびとのくらし・生活＞から学ぶ

始まったきっかけ

2020年9月に、いくのパークを拠点にした多文化共生のまちづくりに地域と大学が連携して取り組んでいくための活動をはじめました。2022年には、本来あるべき教育のすがたを、未来ではなくいまを生きる子どもたちとともに取り戻すことを目指し、＜いくのふらっとだいがく＞を開校しました。大阪大学との協働プロジェクトとして各種の講座やセミナー等も協力協働しています。



《猪飼野ちいさな音楽会2025》

開催日 2025年1月26日(日)
参加者 約40名
会場 いくのパーク多目的室
主催 いくのふらっとだいがく実行委員会
大阪大学COデザインセンター
共催 NPO法人IKUNO・多文化ふらっと

《大阪・生野発！多文化共生の希望の種 リレートークVOL.2～未来への提言～》

開催日 2025年2月8日(土)
参加者 93名(対面:56名/オンライン:37名)
会場 いくのパーク多目的室
主催 わかばプロボノプロジェクト実行委員会
(NPO法人IKUNO・多文化ふらっと
府立大阪わかば高校/シミボタ運営事務局 等)



《大阪大学大学院人間科学研究科 福祉と人間研究室等の授業への協力》

実施日	事業	内容・備考
2024年7月19日	共生社会論Ⅱ	多文化ふらっと紹介＋ワールドカフェ実施に向けた事前授業
7月26日	共生社会論Ⅱ	多文化ふらっとでのワールドカフェ開催
10月18日	ピザ窯イベント	子どもたちの交流(サポート＋見学)
11月8日	生野区・鶴橋のまち歩き	JR鶴橋駅からいくのパークまでのフィールドワーク
11月15日	こども食堂への参加	多文化ふらっとのこども食堂(サポート＋見学)
11月29日	第1回ワールドカフェ	問い:「お互いが良い格好しないで素の自分で共生できる環境はどうすればできるのか?」
12月20日	第2回ワールドカフェ	問い:「私も他者も同時に尊重したい、と思うのはどんな時に?どんな人と?」
2025年2月20日	第1回いくの対話のレッスン	多文化ふらっと事務局スタッフと学生らとの対話実践
3月19日	フィールド哲学入門	問い:「なぜ哲学者はフィールドに出るのか」/主催:多文化ふらっと、ソトのガクエン、共生の人間学



8. 講師派遣および施設見学等の実施

大学・高校・小中学校の学生・児童生徒をはじめ、地方公共団体、地方議会及びマスメディア等の方々を対象にした講演依頼および施設見学等を受入れ、2024年度はのべ127団体・個人が参加しました。また学校跡地および多文化共生のまちづくりに関連して大阪だけではなく、他地域や韓国からの公共機関の視察等も増えました。

また、NHK大阪「かんさい熱視線」(7月5日)、NHK総合「Dear にっぽん」(10月26日)をはじめ、TV、新聞、雑誌等の19のメディアに当法人の活動が取り上げられました。

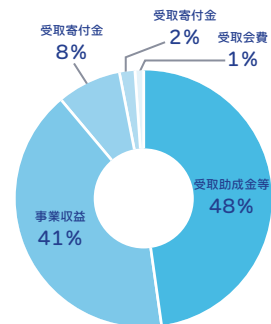
2024年度 活動計算書等 (2024年4月1日～2025年3月31日)

2024年度 活動計算書(概要)

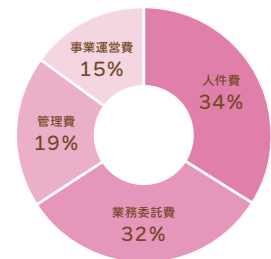
※詳細な活動計算書、貸借対当表、財産目録は、IKUNO・多文化ふらっとのWEBサイトに開示しています。

収入の部	1.受取会費	375,000
	2.受取寄付金	5,559,103
	3.受取助成金等	31,189,493
	4.事業収益	26,826,250
	5.その他収益	1,170,808
	合計	65,120,654

支出の部	1.事業費	
	人件費	17,659,528
	業務委託費	16,458,412
	事業運営費	8,283,954
	計	42,401,894
	2.管理費	
	人件費	608,589
	業務委託費	881,597
	管理費	10,523,747
	計	12,013,933
	合計	54,415,827



収入の内訳



支出の内訳

2024年度のハイライト

収入総額 65,120,654円
支出総額 54,415,827円

収入は前年より19%増。
寄付者数は90人に広がり、
応援の輪が確実に大きくなっています。

学習支援の受講者数のべ5,327名、
ボランティアで参加する方のべ228名、
開催したイベント50回、
イベントの参加人数8,674名

たくさんの地域の子どもやまちの人と
つながる場を提供しました。

進学ガイダンスには135名が参加

高校・大学との協力も進み、若者が未来を
描ける環境づくりを強化しています。

人件費を除く管理費を支出全体の19%に抑制

いただいたご寄付の多くを直接事業に充てています。

新しい挑戦

外国ルーツ青少年の進学等を支援し、課題を社会に発信しました。

「安定」と「挑戦」の両立へ

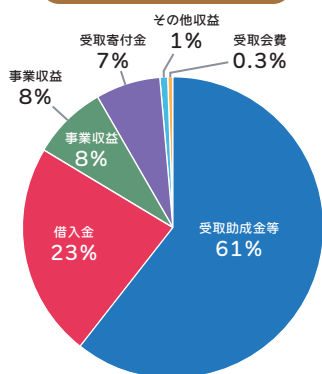
「助成金頼みから脱却し、事業収益と寄付支援の輪で活動を前へ」

3年間の収入総額推移

2022年度(約1億円)→2023年度(約5,400万円)→2024年度(約6,500万円)

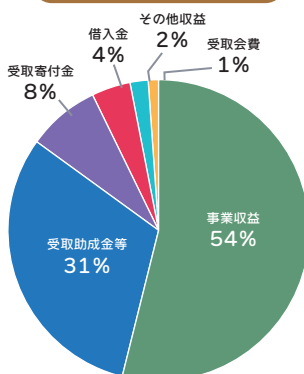
	2022年	2023年	2024年
事業収益	8,307,957	29,779,418	26,826,250
受取助成金等	62,182,598	16,807,450	31,189,493
受取寄付金	6,791,311	4,343,298	5,559,103
受取会費	290,000	415,000	375,000
その他収益	993,776	1,286,555	1,170,808
新規借入	23,999,780	1,999,120	0

2022年度 収入の内訳



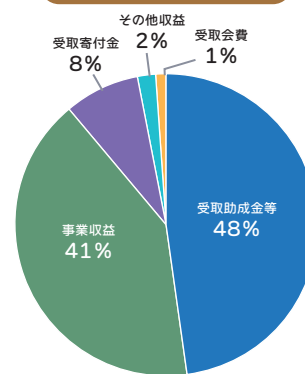
2022年度:「助成金が6割、借入金2割。助成依存の構造。」

2023年度 収入の内訳



2023年度:「助成金が減少する一方、事業収益が急増。自立への転換期。」

2024年度 収入の内訳



2024年度:「助成金+事業収益の2本柱。健全な収入構造へ。」

財務トピックスまとめ

1.新規借入ゼロ

2022年度に約2,400万円の借り入れを行い、事業の立上げを行いました。

2024年度には新たな借り入れは行わず、当初計画通りに事業収益と助成金の両輪で支える形に移行。持続可能性の高い財務構造へ進化しつつあります。

2.寄付と会費、地域からの変わらぬ支え

会員や寄付者の皆さまの応援が安定的に続き、活動を支えています。

小さなご寄付の積み重ねが大きな力になっています。

3.今後の展望

これからは寄付基盤のさらなる強化と、地域に根ざした事業収益の拡大を進め、持続可能なまちづくりを実現していきます。

ご支援のお願い

「どうせムリ」から「できるかも」へ。— その一歩が、まちを変える。

ちがいを排除するのではなく、活かしあえるまちをつくるためには、継続的な活動と支えが必要です。「できることは少ないけれど…」そんな気持ちこそ、変化のはじまり。

あなたの一歩が、「できるかも」の種になります。

👉 ご寄付

IKUNO・多文化ふらっとの活動にご賛同いただき、ご寄付いただける方は、ご自由な金額でのご寄付をお受けしております。

クレジットカードでのご寄付はQRコードからお願いいたします。



銀行振込でのご寄付をお考えの方は、振込後、お手数ですがメールもしくはQRコード【寄付者フォーム】より、寄付された方の<お名前><ご住所><連絡先>をお知らせいただければ幸いです。

【振込先】楽天銀行 第四営業支店 (254) 普通口座番号：7548640
口座名：特定非営利活動法人 IKUNO・多文化ふらっと



AMAZON欲しいもののリストから物品を寄贈👉

子どもたちの日々の活動に必要な物品を寄付していただけると有難いです。
下記のQRコードからAmazonのサイトへと移動します。



協力者のご芳名

2024年度内に会員・賛助会員・寄付者としてご協力いただいた方々（敬称略）

足立須香、老田信、木村和弘、岩崎健二、老田清子、小澤秀樹、坂口英幸、佐々木修一、藤本敬三、西川徹二、林真樹、堀本和彦、牧草洋一、梁千賀子、渡邊茂臣、伊賀市立さくら保育園、池田幸代、上野智美、老田信、岡山牧呼、川端麗子、金貴史、株式会社金沢化成工業所、金谷一郎、金谷輝子、阪口新、社会福祉法人山本総合保険事務所、宋宇蘭、長崎由美子、林美津子、百年芸能祭関西実行委員会、玄悠子、福西千砂都、三宅満喜夫、梁千賀子、和田友哉
※匿名の方々も含め、正会員：19名、賛助会員：37名、寄付者：89名・団体



〒544-0034
大阪市生野区桃谷5丁目5-37 いくのコーライブスパーク A棟2階
TEL / FAX : 06-6741-1123
メール : info@ikunotabunkaflat.org
HP : https://www.ikunotabunkaflat.org/

